

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	ブルーフ・パール	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.519	△RG	0.052	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：ブルーフ・パール

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

4-1/2

番

研磨剤

比較対照ボール：ブルーフ

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 インチ

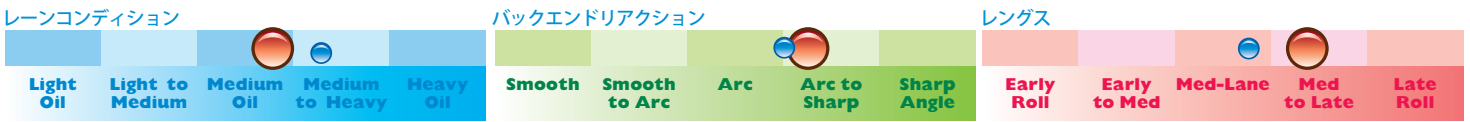
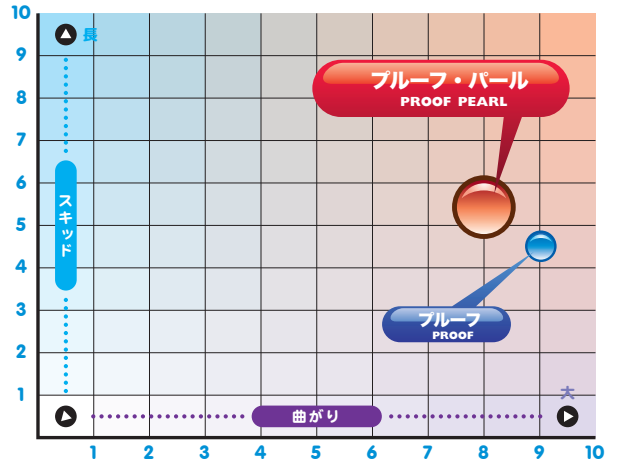
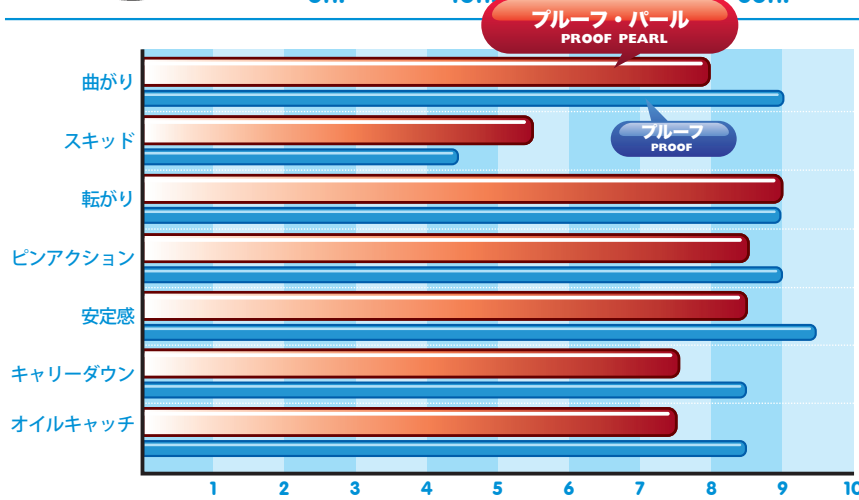
4-1/2

番

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



ボールの評価

今度のProofはPearl素材。メーカーこそ違えど、MOTIV社のカバートリボルトのような動きと幅広いコンディションで持続的に動き、コントロール性とダイナミコアの特徴がバランスよくすべてにおいてパフォーマンスとして表れ、もしこの時期にトーナメントが開催されていた場合、きっと主力商品として活躍してたであろうProofがPearl素材で発売されます。

Solid素材からPearl素材になったことで曲がりのイメージは初代Proofと変わりませんが、曲がりの大きさが変わりました。対応コンディションがMediumからMedium lightになり、初代Proofで投げていたラインが曲がりが大きくなり過ぎたときに、曲がりのイメージを変えずにアジャストできるボールの位置づけで使用できます。Pearlタイプですが、思っている以上に滑る感じもなく、500, 1000 Siaair / Crown Factory Compoundという仕上げが、光過ぎないミディアムポリッシュ状態をだしていて、それがProof Pearlのスキッド具合に程よいキャッチとスキッドをだしていると思われる。

比較投球を見て頂けるとわかりますが、Proofの投球ラインに対し、やや右のラインを攻める形になっています。

ボールの曲がるイメージもProof Pearlのほうが直進力が高く、曲がりもやや奥にイメージされているのも見て取れると思います。Proofの曲がりを継承していますので、曲がりのイメージはスムーズコントロール。Pearlでもコントロール重視の使い方ができるので、「刺さる」ような劇的な動きではなくコントロールしやすさは高いレベルにあると思います。Proofを投球して手前の進みが悪く感じたときや、コントロール主体のボールでスキッドを得られるボールを求めている方、アニマルパターンで40F以下のコンディションで扱いやすいボールの候補になると思いますので、ぜひこの機会にご検討ください。

特記事項

Proof Solidの曲がりのイメージを継承させて、SolidとPearlとをしっかり差別化して使用領域が分けられています。扱いやすさが前面に出ていて、女性の方でも扱いやすさ抜群です。